



ノイエンガメ強制収容所記念館

著作権情報  
開館時間  
連絡先

記念館の歴史とその概要

## KZ-Gedenkstätte Neuengamme

### ノイエンガメ強制収容所

ノイエンガメには1938年から1945年まで北西ドイツ地域最大の強制収容所が存在していた。この土地に強制収容所を設置することになったきっかけは、ナチス体制がハンブルクで計画していた大規模都市開発に必要なレンガの生産であった。

#### 収容者

強制収容所は本来、ナチス体制に対して政治的に反対する人々を収容するために設置された。後になって、ナチス体制によって迫害を受ける、それとは異なる人々の移送が増えていった。それはユダヤ人、シンティ・ロマ、同性愛者、エホバの証人の信者、そしてナチス体制によって「反社会的人物」「犯罪者」と呼ばれた人々であった。ノイエンガメ強制収容所の最初期の収容者たちは、圧倒的にドイツ人であった。大戦が始まるとヨーロッパの占領地域全域から男性が、そして1944年以降女性もこれに加わっていった。強制収容所への移送は、ドイツ占領当局への抵抗、強制労働の拒否を理由に、もしくは人種主義的な動機による迫害として行われた。非ドイツ系の収容者は、短期間の間に収容者の圧倒的多数（90%）を占めることになった。その半数以上は、中央ないし東ヨーロッパ出身者であった。1941/1942年の時期には、ポーランドからの収容者が、1942/1943年の時期にはノルウェーからの収容者が、収容者の中の最大の民族集団となった。しかしながらベルギー、フランス、オランダ、デンマークからも1943年から1944年にかけて数千名がノイエンガメ強制収容所に移送されてきた。1938年から1945年の時期に合計で8万人を超える男性と13,500人の女性がノイエンガメ強制収容所と85を超えるその従属収容所群に収容された。さらに5,900名の収容者名簿に記録されていない収容者がいたことが分かっている。敗戦までの収容所の解体のプロセスにおいて、殺人的に劣悪な生活・労働条件が原因となって、証明できるだけでも、少なくとも42,900人がノイエンガメ収容所内で命を落としたことが分かっている。これに加え、さらに数千名の収容者が他の収容所への移

送後、ないしは収容所からの解放された後に収容を原因とする後遺症によって亡くなっている。

#### 収容所親衛隊

政治的、人種的その他の理由から迫害された人々を強制収容所で管理していたのは親衛隊であった。ノイエンガメ強制収容所とそれに従属する収容所群には総計で4,000名を超える親衛隊員が配置されていた。女性用収容所には親衛隊に勤務する女性の看守が配置されていた。戦争末期には、陸軍、海軍、国鉄、税関そして警察職員も強制収容所の看守業務に配置されていた。親衛隊員は強制収容所の収容者を、人間の尊厳を傷つける様々なやり方で取り扱った。厳密に決められた収容者に対する罰則規定以外に、看守の恣意が入りこむ大きな余地が存在していた。特に残忍な親衛隊員は、例えば昇進といった形でこうした残忍な措置に対する報償を得ていた。

#### 収容所での労働

ノイエンガメ強制収容所内では、収容者に対して一日10時間から12時間の重労働が課せられていた。彼らは収容棟、親衛隊員棟、新たなレンガ工場、その他の生産設備の建設作業に従事していた。最も劣悪な労働条件下に行われた作業の一つが、ドーヴェ・エルベ川で船の航行を可能にするための土木工事と埠頭を伴った運河の支流の建設であった。1942年には新たなレンガ工場が操業を始め、収容者は粘土の掘り出し作業に大量に動員された。1943年には防空壕および司令部用のコンクリートの部材の生産が開始していた。戦争の後半には、収容所内の軍需生産設備いわゆる「ヴァルター・ヴェルケ」および親衛隊が所有する「ドイツ装備工業」での労働が中心になった。1942年以降に北西ドイツ地域に多数設置された従属収容所内では、収容者は主として軍需生産や空襲後の瓦礫の撤去に動員された。彼らは掩蔽壕や工業施設の建設にも従事した。

#### 宿舍

収容者は初期の段階では、それぞれ2つの「ブロック」からなる8棟の木造のバラックの中で、地面の上に直接置かれた藁を詰めた袋の上で、すし詰め状態で眠った。後に三段ベッド、棚、机そしてベンチがその中に備え付けられた。幅8メートル、長さ50メートルのブロックの中に、通常で300名以上、時には600名を超える収容者が寝泊まりした。1943年から1944年に建設された2つのレンガ作りの建物は、それぞれ4つのブロックからなり、それぞれ500〜700名を収容した。1944年からは一つの寝床に3人が寝泊まりすることになった。身体を洗う機会は極めて限られており、衛生設備は不十分なものであった。宿舎には汗と排泄物の臭いが充満していた。プライベートな空間は存在せず、また誰が良好な寝場所を確保するのかというのは、「腕力の原則」によって決まっていた。

#### 食事と衣服

飢えが収容者の思考と行動を規定していた。食事は極めて不十分かつひどいものであった。朝食は薄いミルクスープと「コーヒー」と称された飲み物、そして昼食は薄いスープであった。多くの収容者には、それに加えて「重労働手当」として具が載ったパンが配給されていた。夕食には次の日のためのパンが配給される。収容者は、寒さからも雨からも身を守ることはない縦縞の画一的な衣服を着ていた。しばしばそれは継ぎが当てられ、ちぎれており、また小さすぎたり大きすぎたりした。多くの収容者は、紙袋や毛布の切れ端を衣服の下にまとい寒さをしのいだ。しかしながらこれは親衛隊によって禁止されており、見つかった場合は厳罰に処せられた。冬期でも収容者は木の靴を履いていなければならなかった。1943年以降、縦縞の衣服が不足してくると、親衛隊は一般の衣服を支給するようになった。それには大きく黄色いユダヤの星が描かれていた。

#### 病気と死

強制収容所の収容者は、日常的に死と向き合っていた。彼らは多くの他者の死を目撃し、常に自らが死に至るという不安の中で生きていた。彼らは飢えや、不十分な衣服と食事という状況下ではあまりに過酷な労働環境、劣悪な衛生状態、不十分な医学的処置、そして虐待などによって命を落とした。数千人の収容者が処刑され、または虐殺行為の犠牲者となった。

#### 終結

1945年3月にノイエンガメ強制収容所内の「スカンジナビア棟」は、ドイツ国内に収容されていた全てのデンマーク人、ノルウェー人収容者の集合場所となった。4,000人を超える収容者が、デンマークとスウェーデン赤十字の活動により4月9日から20日にかけて、いわゆる「白いバス」でスウェーデンに移送された。同じ時期に収容所自体の撤去が始まった。数千名の収容者は、ノイエンガメ強制収容所とその従属収容所群から徒歩もしくは貨車に載せられ、ヴェッペリン、ベルゲン・ベルゼンなどの「受け入れ収容所」に向かった。彼らはそこで食料、医療措置もなく、また破滅的な衛生状態で放置された。9,000名の収容者は、リュベック湾に停泊する「ティールベック」「アテネ」「カップ・アルコナ」の三隻の船舶に移送された。そこで多くの者が飢え、渇きそして病気が原因で命を落とした。1945年5月3日のイギリス軍の空爆により、「ティールベック」「カップ・アルコナ」号に乗っていた合計で6,600名の収容者が、焼死または溺死、そして沈没する船から逃げようとしている最中に親衛隊員により射殺された。生き残った収容者は、450人のみであった。ノイエンガメ強制収容所内では、親衛隊が彼らの犯罪行為の証拠を意図的に抹消していた。資料は焼き払われ、バラックは清掃され、拷問台や絞首刑台は撤去された。最後の収容者と親衛隊員が整頓された収容所を離れたのは、1945年5月2日であった。その数時間後に最初のイギリス兵が収容所に足を踏み入れた。

#### ノイエンガメ強制収容所記念館

Jean-Dolidier-Weg 75  
21039 Hamburg  
電話: +49 (0) 40 | 4 28 13 15 00  
FAX: +49 (0) 40 | 4 28 13 15 01  
E-Mail: info@kz-gedenkstaette-neuengamme.de  
インターネット:  
www.kz-gedenkstaette-neuengamme.de



展示室  
月～金 9:30～16:00  
土・日・祝祭日  
4月～9月 12:00～19:00  
10月～3月 12:00～17:00

入場無料  
敷地内は屋内展示の開館時間外でも入場可能

インフォメーションセンター  
開館時間は屋内展示と同一  
電話: +49 (0) 40 | 4 28 13 15 51

文書館  
月～金（祝祭日は除く）要予約  
電話: +49 (0) 40 | 4 28 13 15 37

図書館  
月～木 10:00～15:00  
金 10:00～13:00  
なお事前予約によりそれ以外の時間の開館も可能  
電話: +49 (0) 40 | 4 28 13 15 13

学習センター  
有料の企画の申込先  
電話: +49 (0) 40 | 4 28 13 15 43  
E-Mail: Studienzentrum@kb.hamburg.de

ガイドツアー  
有料のガイドツアーの申込先  
（博物館ガイドセンター）  
電話: +49 (0) 40 | 4 28 13 10

手話（ドイツ語）ガイドツアー  
マルティナ・ベルクマン  
（ハンブルク博物館財団）  
スカイプ: museumsdienstHH  
電話: +49 (0) 40 | 31 10 80 03  
（テレビ電話）  
FAX: +49 (0) 40 | 427 925 324  
E-Mail: Martina.Bergmann@museumsdienst-hamburg.de

ガイドツアー（日曜日のみ（事前の予約不要））  
12:00～（通年）  
集合場所: 煉瓦工場跡脇のプレハブ・ハウス（Plattenhaus）  
15:00～（4月～9月）  
14:00～（10月～3月）  
集合場所: 中央入口

編集  
ノイエンガメ強制収容所記念館（2016年7月）  
責任編集者  
カーリン・シャーヴェ  
レイアウト  
ユリア・ヴェルナー

写真  
ノイエンガメ強制収容所記念館（文書館）  
当館は、連邦文化・メディア庁による支援を受けています。

Ausstellungen  
Begegnungen  
Studienzentrum



ノイエンガメ強制収容所記念館  
展示館  
出会い  
学習センター



## ノイエンガメ強制収容所記念館

ハンブルクにあるノイエンガメ強制収容所記念館は、1938年から1945年という時期に強制収容所とその従属収容所群の収容者であった10万人以上の人々と、彼らの歴史に思いを馳せる場所である。親衛隊によるテロ行為の犠牲者についての記憶を保存し、ナチス体制による支配の原因とその帰結について様々な向き合い方を可能にする、追悼と学びの場所である。

### 1945年以降

戦争終結後イギリス占領軍当局は、ノイエンガメにあるかつての強制収容所の建物を「難民（強制収容所の収容者、強制労働による連行者など、本国を離れドイツに居住させられていた人々）」の収容施設に、その後親衛隊、ナチ党、国防軍関係者の収容所、そして移送者の収容施設として使用した。この収容所の敷地は、1948年にハンブルク州に返還された。ハンブルク州当局は、かつての強制収容所の建物の多くを解体し、残った一部の建物と新たに建設した建物の中に刑務所を設置した。1960年代末には、さらにもう一つの刑務所がかつての強制収容所の敷地に成立することになった。強制収容所での生活を生き延びた多くの人の要求により、1953年に最初の追悼碑が、収容所内の菜園があった場所に設置された。1965年にはレリーフ、追悼の壁そして「倒れた収容者」の彫刻がセットになった国際的な警鐘碑が作られた。1981年には、最初の常設展示が行われた資料館が開館した。主として生存者の団体による長期間の働きかけによって、多くの抵抗があったものの、最初の刑務所が移設され、1995年以降、広大な敷地の中に新たな常設展示が行われることになった。そして2005年には、新たに編成された記念館が一般に公開されることになった。敷地内にあった二つめの刑務所が2006年に閉鎖された後、かつてのノイエンガメ強制収容所のほぼ全ての敷地が記念館になった。

### 記念館

記念館の敷地は57haあり、強制収容所があった時代から残っている建物が17棟ある。ノイエンガメ強制収容所記念館は、ドイツにある強制収容所記念館の中で最大のものの一つである。建物以外の敷地も整備がなされ、はっきりと収容所であったことがわかるようになっている。かつての収容所は、バラックの基礎と収容所を取り囲む柵を示す目印、そして地下からの発掘物によってその構造がわかるようになっている。かつての柵および監視塔の配置も示されている。記念館の中では、5つの常設展と臨時の特別展を見学することができる。文書館、図書館、そしてセミナーや調査プロジェクトのためのインフォメーションセンター・学習センターは資料の収集・記録そして仲介などを行っている。記念館の入り口にあるサービスポイントでは、様々な情報を入手し、また記念館が発行する出版物を購入することができる。数カ国語のオーディオガイドシステムにより、敷地内全域にある112ヶ所のインフォメーション・スタンドから情報を得ることができる。こうした情報は、スマートフォンからも呼び出すことができる（アプリケーション：KZ-Gedenkstätte Neuengamme）。

### 敷地

敷地は、国際的な警鐘碑②、追悼施設、追悼の家③が設置されている追悼の領域①およびその南側に隣接する広大な歴史的な記録・展示領域から構成されている。見学ルートが敷地内に整備され、かつての煉瓦工場④、埠頭⑤ないしは親衛隊が使用していた建物⑧といった歴史的な建築や施設へ通じている。敷地内60ヶ所に設置されたパネルが、テキスト・画像で記念館内の各所を説明している。見学順路マップは記念館入り口横にあるサービスポイントで手に入れることができる。

### 追悼の家

追悼の領域には、1995年に建築された「追悼の家」が存在している。壁に順番に並べてある4メートルの長さの布には、記念館の調査によって明らかになっているノイエンガメ強制収容所で亡くなった方の名前が記載されている。23,395名の名前が、亡くなった日付の順番に記載されている。終戦が近くなると、犠牲者の数は日を追って増えていく。名前が判明していない犠牲者には、何も印刷されていない布のスペースが捧げられている。国際的な警鐘碑を見渡すことができる隣の部屋には、7つの木製の台の上に収容所の病棟が作成した手書きの死亡記録の複製が展示されている。

### 展示

5つある常設展示のうち4つは、歴史的建築の中に展示されている。強制収容所時代の粘土の採取所に戦後になって建設され、2006年に取り壊された刑務所の壁の一部が残っているが、そこで5番目の展示が行われている。それ以外にも常設展示のテーマを補完し、さらに詳しい内容に踏み込んだ特別展が時折開催されている。常設展のテーマは、収容者の宿舍跡⑦の中に展示されている「時代の痕跡：ノイエンガメ強制収容所1938-1945とその後歴史」、親衛隊のガレージ跡⑧に展示されている「勤務地としてのノイエンガメ強制収容所：収容所親衛隊」、煉瓦工場跡④の中に展示されている補足展示「労働と絶滅：収容所内での強制労働」、ヴァルター工場跡⑨の中に展示されている「戦時経済への動員：軍需生産部門における収容所内での強制労働」そして刑務所の壁の跡⑥に展示されている「刑務所と強制収容所記念館矛盾の記録」である。

### 記念館が提供するプログラム

ノイエンガメ強制収容所記念館は、歴史と現在の問題に取り組むための多くの可能性を提供する国際的に重要な出会いそして学びの場となっている。来場者は敷地内のツアーや展示を通して情報を得ることができる。調査プロジェクトや学習会や生涯学習の機会も提供されている。ドイツ、また二国間・多国間の視点からの政治的・歴史的な学習のための素材が開発されており、展示室、そして学習センター内⑩にあるセミナールーム・ワークショップルーム、マルチメディアに対応したインフォメーションセンター内⑧で研究しながら学ぶことが可能になっている。記念館の見学をより深い次元で行うために、そして学術研究のために文書館と図書館⑩も準備されている。記念館では、定期的に追悼の催し物を開催し、また当時について知る人との語らいの場を設定している。

### 教育プログラム

教育プログラム担当職員は、事前に申告があった来場者のグループの特性に合わせて、ノイエンガメ強制収容所の歴史を、特に収容者の運命に焦点をあてて解説している。館内のガイドツアーから1日プロジェクトまで、2～5時間の枠内で様々な催し物が有償で提供されている。これらは様々な方法を使って、参加者が自律的に知識を獲得すること、広大な敷地を自らの手で調査すること、そして展示のテーマについてより集中的に学ぶことを支援している。

予約は、以下のハンブルク美術館・博物館ガイドセンターを通して可能である：+49(0)40 4281310 あるいは [www.museumsdienst-hamburg.de](http://www.museumsdienst-hamburg.de)。

### 学習センター

1日もしくは数日にわたる学習会が、青少年もしくは成人向けに開催されている。またそれらはしばしば学校以外の青少年ないし生涯教育機関との協力によって実施されている。職業学校そして種々の機関の関係者向け特別にアレンジされた催し物も提供されている。学習センターは、ドイツ内外の他の機関との協力により研究会、ワークショップ、セミナーを開催している。青少年の交流・交換プログラムだけではなく、国際的な活動キャンプも組織している。学習センターの提供するプログラムの予約は、直接ノイエンガメ強制収容所記念館で予約することができる。連絡先は以下の通り：+49(0)40 428131543 もしくは [studienzentrum@kb.hamburg.de](mailto:studienzentrum@kb.hamburg.de)。

一般の見学者向けのガイドツアーは、定期的実施されている。これについての情報は、このパンフレットの奥付もしくは強制収容所記念館のホームページを参照されたい。

ノイエンガメ強制収容所記念館のホームページは、この場所の歴史、様々な展示、今後開催予定の教育プログラム、催し物。ガイドツアー、研究、刊行物、連絡先そしてソーシャルメディアでの活動等の情報が提供されている。URLは以下の通り：  
[www.kz-gedenkstaette-neuengamme.de](http://www.kz-gedenkstaette-neuengamme.de)  
展示についてのヴァーチャルツアー（資料のダウンロードも含む）は以下のURLで提供されている：  
[www.neuengamme-ausstellungen.info](http://www.neuengamme-ausstellungen.info)

### バリアフリー

1981年に建設された「追悼の家」を含め、一般来場者向けの全ての建物は車椅子でのアクセスが可能になっている。

